

令和7年度 病害虫発生予察情報

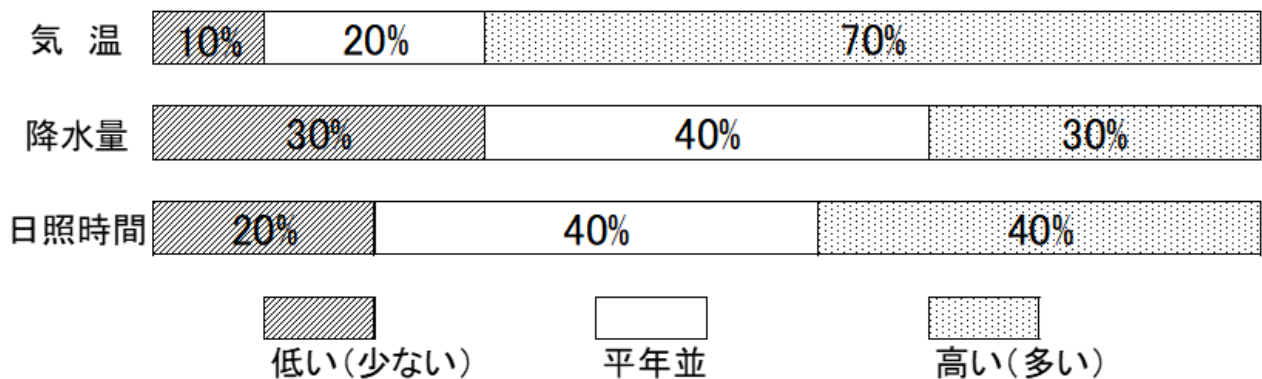
発生予報第6号（8月）

令和7年8月4日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並
		紋枯病	やや少ない
		白葉枯病	平年並
		ニカメイチュウ	平年並～やや多い
		ツマグロヨコバイ	少ない
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	やや少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い
		ハスモンヨトウ	平年並
果樹	ダイズ	黒斑病	少ない
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
	ナシ	ハダニ類	やや少ない～平年並
		カメムシ類	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	カキ	カキミガ	平年並～やや多い
		カメムシ類	平年並
野菜	アブラナ科野菜	ハスモンヨトウ	平年並

中国地方1か月予報(8月2日～9月1日・広島地方気象台7月31日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、穂いもちの発生ほ場率が8.6%(平年8.3%)、発病株率が0.8%(平年2.9%)と、発生量は平年並みである。
- ② 県内の一部で発生が多いほ場も見られる。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生地方 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が4.3%（平年13.9%）、発病株率が0.4%（平年1.9%）と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(4) ニカメイチュウ（第2世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は0%（平年4.4%）、被害株率は0%（平年0.1%）となり、本種の発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までの予察灯における誘殺数は671頭（平年30.1頭）、フェロモントラップにおける誘殺数は73頭（平年126.2頭）となっており誘殺数は平年よりやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は15.6%（平年38.9%）、捕獲数は1.6頭/50株（平年6.3頭/50株）となり、本種の発生量は平年に比べて少ない。
- ② 7月第5半旬までの予察灯（出雲市）での誘殺数は22頭（平年96.7頭）となっており誘殺数はやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月第5半旬までに粘着誘殺灯（出雲市）で1頭（平年35.6頭）が誘殺されている。予察灯（平年31.8頭）およびネットトラップ（平年11.2頭）（ともに出雲市）においては本種の誘殺を認めておらず、誘殺数はやや少ない。
- ② 7月下旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率は26.7%（平年67.2%）、捕獲数は2.5頭/50株（平年26.0頭/50株）となり、本種の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第5半旬までに予察灯（出雲市）、粘着板（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていない。
- ② 7月下旬に実施した巡回調査の結果、ほ場での本種の発生は認めていない
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

（8）コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月第5半旬までに予察灯（出雲市）、粘着板（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていない。
- ② 7月下旬に行った巡回調査の結果、本種のほ場での発生は認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

（9）斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した早生品種ほ場でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は68.3%（平年56.7%）、平均捕獲虫数は5.2頭/20回振り（平年4.3頭/20回振り）となり、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメであるもののアカヒゲホソミドリカスミカメの発生も認められる。加えて、ホソハリカメムシやイネカメムシ、クモヘリカメムシなどの大型カメムシ類の発生も確認されている。
- ② 7月第5半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は352頭（平年189.2頭）と平年に比べて多い。
- ③ イネカメムシ成虫の発生ほ場率は14.6%、平均捕獲虫数は0.51頭/20回振りであった。また、幼虫の発生も認められており、本種幼虫の発生ほ場率は31.7%、平均捕獲虫数は1.8頭/20回振りであった。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注）令和7年度 病虫害発生予察情報 注意報 第1号参照
令和7年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第2号参照

2）ダイズ

（1）ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第1半旬～第6半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で110頭（平年288.2頭）、県西部で21頭（平年189.9頭）とやや少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査では、ダイズほ場での本種幼虫による被害（白変葉）は県東部・西部とも認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

B．果樹

1）ナシ

（1）黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率6.6%（平年9.9%）と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期は平年並み、7月第6半旬までの誘殺数は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) ハダニ類

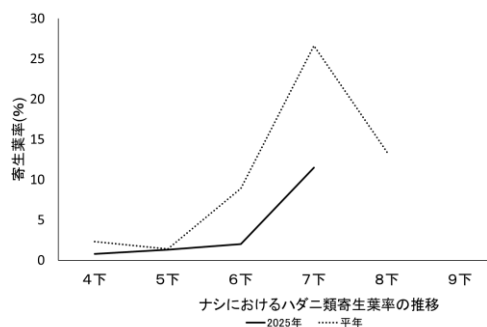
予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率 11.5%（平年 26.6%）、寄生虫数 30.9 頭/50 葉（平年 63.7 頭）とやや少ない（右図参照）。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ4種の合計誘殺数は 295 頭（平年 2296.6 頭）と平年並み。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率 0.7%（平年 2.7%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、第1世代幼虫による芽及び果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ4種の合計誘殺数は 295 頭（平年 2296.6 頭）と平年並み。
- ② 7月下旬の巡回調査では、カキの被害果率は 0.3%（平年 2.1%）と平年より少

ない。

③向こう 1 か月の気象は、本種の発生に助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 7 月第 1 半旬～第 6 半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で 110 頭（平年 288.2 頭）、県西部で 21 頭（平年 189.9 頭）とやや少ない。

② 本種幼虫の発生はダイズほ場で認めていない。

③ 向こう 1 か月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病虫害防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp